

今年の夏休みもたくさんの子供たちが家族連れで石見銀山を訪れました。その多くは観光目的の来訪でしたが、石見銀山に興味を持ち好奇心に満ちた子供たちに出会えたことは大きな喜びでした。

「娘が国内の世界遺産を勉強したいと言って奈良から来ました」と言うお母さんのそばで熱心にノートをとる女の子、「なあなあ ○○○○知っとる?」と、お父さんに声かける男の子など。圧巻は、「大森のいろいろなところに行って、観光客などのたくさんの人たちへアンケートして、大森の地図をつくりたい。何度か来て、教えていただきたいこともあります。おばあちゃんといっしょに来るので協力していただませんか」と、訪ねてきた近隣の小学生の女の子。「いいよ、いいよ、いつでもおいで。わかったことがあったら教えてね。地図ができたから見せてね」と、わたしたちは相好を崩しました。

さて、いま現実の生活では、実際にモノに触り、手足を動かし、体で覚えた“ことば”が少なくなってきたと感じています。たとえば、鉱山で肝心要の採鉱の場面。「せおう」「こなす」「うがつ」「はつる」という言葉を子供たちは、それこそ身振り手振りでも説明できるのでしょうか。皆さんはいかがでしょう。

「せおう」はわかりますね。背に負うこと。背負子（ショイコ/セオイコ）、木負子（キオイコ）を背って田畑や山へ仕事に行った方も多いはずで

す。「こなす」は粉（こ）に成すの意、熟すと書きます。固まったものを細かく砕くことで、石見銀山でも掘り出した鉱石をそれより硬い石（かなめ石）の上に置き、金づち（ツルハシ、ゲンノウ）で細かくすることを「コナシ」と呼んでいます。では、「うがつ/穿つ」や「はつる/研る・削る」はどうでしょう。穴をあける、うすく削り取るが原意ですが、ほとんど使ったり聞く機会がないように感じます。

「なあなあ これ知っとる?」の会話のなかに、感性豊かな子供たちが身をもって知り得る機会が増えてくるよう、わたしたちも努力したいと考えています。「チンする」だけの料理にならないように。。。



砕いた鉱石から不用物を流しさる「ゆりわけ～比重選鉱」の体験学習

ちゃんぽし語録⑦

散歩中にばったり出会ったAさん、Bさんの会話です。

A: おや、犬をこうとっちゃったかいな。
 B: いんやあ。ほうずがあんまりねだれるけえ、もろうてきただに。
 A: そがかな。
 B: 自分で世話するちゅうたに、ちっともせんけえわしが連れて歩いとるだ。
 A: そがなもんだに。
 B: しごんならんのはほうずでたくさんだに、こなもよーにしごんならんけえくたびれとるわ。
 A: まあ運動だと思ってすーだわ。わしゃもちっと痩せにゃあ言われて歩いとるだ。
 B: は、そがだ? ほんならこれから一緒に歩きやえな。
 A: そらええな。そがしょうか。
 B: 一人で歩きや大儀がついていけんでなあ。
 A: そがだいなあ。

(解説)

困っているという会話ですが、方言だと角が取れてやわらかい雰囲気になりますね。やれん、やれんと言いながらも、笑いながら話している様子が目に浮かびます。

【対訳】

A: おや、犬を飼ってましたか?
 B: いいえ。息子があんまりせがむので、もらってきたんです。
 A: そうですか。
 B: 自分で世話をすると言ったのに、全然しないで私が散歩させているんですよ。
 A: そんなものですよ。
 B: やんちゃなのは息子で十分なのに、この犬もすぐやんちゃで疲れ果てているんです。
 A: まあ運動だと思ってしたら。私はもう少し痩せないといけないと言われて歩いているんですよ。
 B: ああ、そうなんですか。それならこれから一緒に歩けば良いですね。
 A: それは良いですね。そうしましょうか。
 B: 一人で歩くと面倒になっていけませんからねえ。
 A: そうですよええ。